

# 財政福祉委員会

## 説明資料

### <目次>

- |   |                     |    |
|---|---------------------|----|
| 1 | がん検診受診率の推移          | 1頁 |
| 2 | がん検診の受診率向上に向けた主な取組み | 2頁 |

令和元年9月25日

健康福祉局

# 1 がん検診受診率の推移

(単位：%)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
胃がん	10.7	10.6	11.8	19.9	22.8	23.5
大腸がん	22.7	22.4	25.7	25.1	25.4	25.0
肺がん	18.8	19.5	21.5	21.6	21.4	20.7
子宮がん	52.9	52.7	55.2	58.9	58.6	59.0
乳がん	36.6	37.0	41.3	47.8	48.3	49.2
前立腺がん	28.4	29.5	32.5	32.4	32.0	32.0

注1：受診率は、40～69歳（胃がん検診（平成28年度以降）は50～69歳、子宮がん検診は20～69歳、前立腺がん検診は50～69歳）の受診者数を同年齢の対象者数（当該年度の4月1日時点の推計人口から国勢調査における就業者を除いた人数）で除して算定

$$\frac{\text{当該年度の受診者数}}{\text{当該年度の対象者数}} \times 100$$

注2：胃がん検診（平成28年度以降）の受診率は、胃内視鏡検査の受診回数が2年度に1回であるため、下記のとおり算定

$$\frac{\text{前年度の受診者数} + \text{当該年度の受診者数} - 2\text{年連続受診者数}}{\text{当該年度の対象者数}} \times 100$$

注3：子宮がん検診及び乳がん検診の受診率は、受診回数が2年度に1回であるため、下記のとおり算定

$$\frac{\text{前年度の受診者数} + \text{当該年度の受診者数}}{\text{当該年度の対象者数}} \times 100$$

## 2 がん検診の受診率向上に向けた主な取組み

開始年度	主な取組み
25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腸がん・子宮頸がん・乳がん検診の無料クーポン券対象者のうち40歳の方への個別再勧奨を実施</li> </ul>
26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子宮頸がん・乳がん検診の無料クーポン券を本市独自に継続（国は子宮頸がんを20歳、乳がんを40歳のみに縮小）</li> <li>・協会けんぽ特定健診と胃がん・大腸がん・肺がん検診を同時実施</li> <li>・市国民健康保険特定健診との同時実施を拡充（胃がん・大腸がん検診を拡充、肺がん検診を開始）</li> <li>・がんに関する学習補助教材を配布し、保健学習等において活用</li> </ul>
27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腸がん・子宮頸がん・乳がん検診の無料クーポン券対象者への個別再勧奨を40歳のみから対象年齢全員へ拡大</li> <li>・電話勧奨を開始（市国民健康保険特定健診と同時実施）</li> <li>・協会けんぽ被扶養者へ勧奨チラシを送付</li> </ul>
28年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腸がん検診の無料クーポン券を本市独自に継続（国は廃止）</li> <li>・胃内視鏡検査開始</li> <li>・協会けんぽ被扶養者へ再勧奨チラシを送付</li> </ul>
29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊がん検診ガイドを全世帯配布（29年度・30年度）</li> <li>・協会けんぽ被扶養者へ再々勧奨チラシを送付</li> </ul>
30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬局と連携した受診勧奨を開始</li> </ul>

